

# 鹿児島県立与論高等学校 校長通信

第22号(令和4年4月28日／校長 甲斐 修)



校訓「好学 創造 親和 不屈」

鹿児島県大島郡与論町茶花1234番地1

電話 (0997) 97-2064

FAX (0997) 97-2844



## 新入生44人が高校生活をスタート

4月7日の第56回入学式で、44人の生徒が本校に入学しました。

式の中で新入生代表は、「これからは責任と自覚をしっかりと持ち、充実した高校生活を過ごしていきます。三年後の島立ちに備え、自律的に考えて行動するよう努めています」と宣誓しました。

「好学・創造・親和・不屈」の校訓の下、よき伝統と爽やかで落ち着いた校風を継承する本校で、新入生のみなさんが勉学や学校行事などに真摯に取り組み、充実した高校生活を送ることを期待します。

## 与論高校のビジョン

予測が困難な時代に、実現したい未来や進むべき方向性を簡潔な言葉で表した“ビジョン”を設定する企業等が増えています。ビジョンは経営判断を下す際の文脈になるとともに、組織にチームワークや一体感、共同体を生み出すなどの効果が期待されます。

組織におけるビジョンの定義には様々な考え方がありますが、本校は「コアバリュー」「パーカス」「ミッション」の三つの要素で構成するという論考に依拠し、今年度次のようなビジョンを策定しました。

### 与論高校のビジョン

- コアバリュー  
私たちは、「生徒の成長」に責任をもちます。
- パーカス  
私たちは、これから時代に必要とされる資質・能力の育成を通して、地域のよりよい未来づくりに貢献します。
- ミッション  
私たちは、学習指導と学習評価に係る「与論高校モデル」の質的向上を通して、学校教育全体の発展に寄与します。

コアバリューは組織の根本原則であり、行動指針です。本校は目の前の生徒の成長を第一に考えて取組を精選し、指導の充実に努めています。

パーカスは組織の存在意義です。本校は新学習指導要領の理念である「社会に開かれた教育課程」を具現化し、地域のよりよい未来づくりに貢献します。

ミッションは組織の全体目標です。本校の学習指導と学習評価の改善に係る取組の充実を図ることで、

学校教育全体の発展に寄与します。

本校はこのビジョンの下、グランドデザイン（「校長通信」第21号）に基づいて、地域と連携した魅力ある高校教育を追求していきます。

## 教育目標を実現するために

学校には教育目標があり、教育活動はその実現を目指して行われます。本校の教育目標（裏面）は、「憲法、教育基本法の精神にのっとり、『好学の気風』『創造の精神』『親和の態度』『不屈の根性』の校訓のもと、…（略）…人材を育成する」です。この目標が意味するのは教育の不易の部分であり、日々の授業等の中で意識するには大きすぎます。

そこで、本校はこの目標を基に、社会の変化や生徒及び地域の実態、学習指導要領の方向性を踏まえ、令和2年度から「予測が困難な時代を主体的に生き抜く力をもった生徒を育成する」を重点目標に掲げています。

その上で、予測が困難な時代を主体的に生き抜くには、「学ぶことの意義を理解し（好学）、未知の状況の中で、正解のない問いに対しても、よりよい解決策を見出す（創造）ために、多様な人々と協働しながら（親和）、粘り強く取り組もうとする力（不屈）」が必要であると意味付けました。

教育目標をこのように捉え直してみると、本校の校訓はまさに、からの時代に必要とされる力を表すキーワードそのものになっています。そこで、新学習指導要領で育成を目指す資質・能力の三つの柱を校訓の視点で表したもののが裏面の図表です。

昨年度から本校が作成する各教科の単元シラバスには、毎回の授業で育成を目指す資質・能力が校訓の何に相当するのかを明記し、授業者と生徒の双方が教育目標（重点目標）を意識できるようにしています。

本校は今後も単元シラバスと授業デザイン等の工夫・改善に係る不断の努力を重ね、教職員一丸となって教育目標の実現を目指します。

## 《与論高等学校の教育目標》

憲法、教育基本法の精神にのっとり、「**好学の気風**」「**創造の精神**」「**親和の態度**」「**不屈の根性**」の校訓のもと、知・徳・体の調和のとれた心身ともに健康で豊かな人間形成をめざし、わが国の文化と伝統を尊重する態度と国家・社会の進展に寄与できる有為な人材を育成する。

### 《重点目標》

#### 予測が困難な時代を主体的に生き抜く力をもった生徒を育成する

予測が困難な時代を主体的に生き抜くためには、「学ぶことの意義を理解し(**好学**)、未知の状況の中で、正解のない問いに対しても、よりよい解決策を見出す(**創造**)ために、多様な人々と協働しながら(**親和**)、粘り強く取り組もうとする力(**不屈**)」が必要である。

校訓 資質・能力の三つの柱	<b>好学</b> 学問を好むこと。学問に興味や関心をもつこと。	<b>創造</b> それまでなかったものを初めてつくり出すこと。	<b>親和</b> 互いに親しみ、心を合わせること。	<b>不屈</b> 困難に屈せず意志を貫くこと。
＜何を理解しているか・何ができるか＞ <b>生きて働く知識及び技能</b>	「学ぶこと」の意義の理解と、「学び方」に必要な技能	問題の解決に向けて、既得の知識・技能を活用したり、新しい知識・技能と関連づけて考えたりする方法の理解と、そのため必要な技能	多様性に対する理解及び協働して学び合うことの意義の理解と、そのために必要な技能	目標をもって粘り強く取り組むことの意義の理解と、そのために必要な技能
＜理解していること・できることをどう使うか＞ <b>未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力等</b>	問題の解決に必要な知識・技能は何かを自己と関連づけて考え、整理し、それを学び取ることがができる力	問題の解決に向けて、既存の価値觀にとらわれることなく、新たな意味や価値を生み出すことができる力	問題の解決に向けて、多様な人々と考え方を伝え合い、合意形成を図ったり、自己の考えを深めて表現したりすることができる力	問題の解決に向けて、各教科等で身に付けた力を統合的に活用し、粘り強く取り組むことができる力
＜どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか＞ <b>学びを社会や人生に生かそうとする学びに向かう力、人間性等</b>	「学ぶこと」を自らのキャリア形成と関連づけ、今後の成長のために学び続けようとする態度	自ら問題を発見し、その解決策を見出す姿勢を、よりよい人生や社会の構築に生かそうとする態度	多様な人々と体験的な活動を通して協働しながら、よりよい人生や社会を構築していくとする態度	困難な状況でも目標に向かって粘り強く取り組もうとする態度
	<b>生涯学習基礎力</b>	<b>構想力</b>	<b>実践力</b>	<b>忍耐力</b>

※各枠内に示した資質・能力は、相互に関連させながら育成を目指す主なものである。